

☆為替・金利の動向

対円レート推移(2014/11/6～11/20)

	11月6日	11月13日	騰落率	11月20日	騰落率
ノルウェー・クローネ	16.80	17.04	1.5%	17.46	2.5%
スウェーデン・クローナ	15.48	15.57	0.6%	15.99	2.7%
デンマーク・クローネ	19.17	19.41	1.2%	19.92	2.6%
ユーロ(フィンランド)	142.58	144.43	1.3%	148.24	2.6%

北欧4カ国通貨は対円で上昇しました。米国の利上げ観測、日銀による緩和的な金融政策の維持で、日米金利差が更に拡大するとの思惑から、円が対米ドルで、7年3か月ぶりの円安水準を記録するなど、主要な通貨に対し、独歩安となったのが背景です。一方、ノルウェー・クローネはノルウェーの消費者物価指数が対前年比2%増を維持したことが好感され、対ユーロで上昇しましたが、北海ブレント原油価格が2010年9月以来となる1バレル80米ドル割れまで、下落したことや、ノルウェーの第3四半期GDP成長率減速等から反落し、上昇幅を縮小しました。スウェーデン・クローナは後半のノルウェー・クローネ反落の影響を受け、対ユーロで下落しました。

銀行間取引金利3ヶ月物推移(2014/11/6～11/20)

※単位は%

	11月6日	11月13日	変動幅	11月20日	変動幅
ノルウェー	1.630	1.710	0.080	1.670	-0.040
スウェーデン	0.269	0.276	0.007	0.273	-0.003
デンマーク	0.290	0.285	-0.005	0.308	0.023
ユーロ圏(フィンランド)	0.081	0.078	-0.003	0.081	0.003

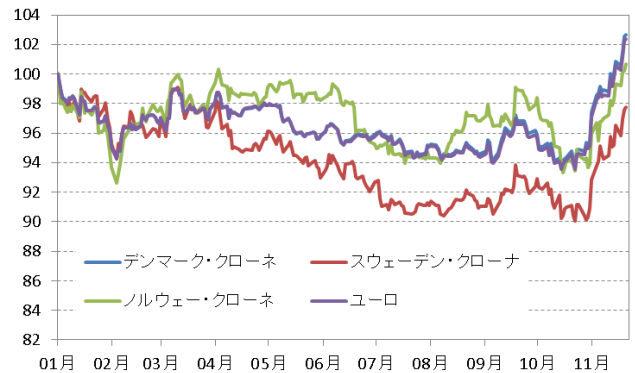
北欧4カ国の銀行間取引金利は横ばい、または上昇しました。市場では欧州中央銀行(ECB)による追加緩和への期待が強く、当該期間前半はデンマーク、ユーロ圏(フィンランド)の銀行間取引金利が低下しましたが、11月19日に予定される3年物流動性供給オペ(LTRO)に関連する借入返済額が市場予想を下回ったことや、追加緩和に対するECB内の不協和音が聞かれたことで上昇に転じました。ノルウェーでは原油が続落したことで、エネルギー関連企業の業績への影響が懸念され、銀行間取引金利は上昇しました。

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、北欧の資本市場と政治、経済等に関する情報を提供することを目的として作成したものです。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。

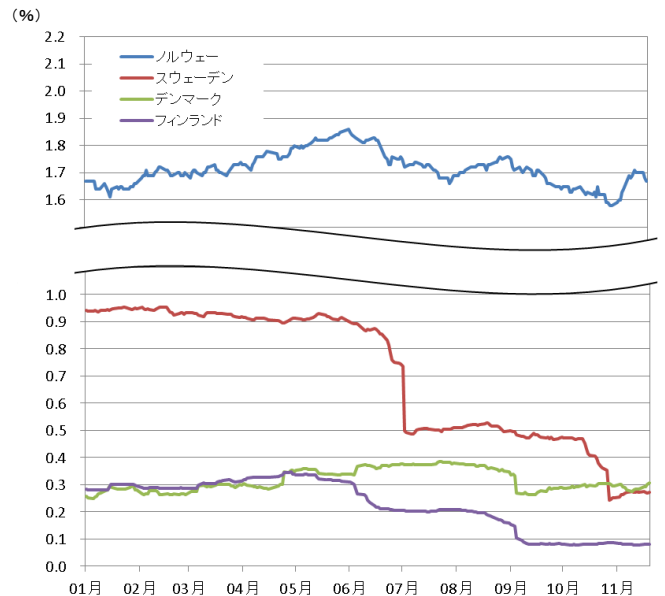
対円レート推移(2014/1/1～11/20)

※2013年末数値を100として指数化



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

銀行間取引金利3ヶ月物推移(2014/1/2～11/20)



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

☆ 北欧ニュース

<スウェーデン金融監督機関、住宅ローンの規制強化へ>

スウェーデンの金融監督機関は、スウェーデンの家計負債の増加を懸念し、住宅ローンの新たな規制を検討しています。規制案は、借入残高と不動産評価額の比率に応じて、一定額以上の借入返済が義務付けられる、という内容です。スウェーデン経済はユーロ圏諸国と比較して、堅調と見られていますが、低金利を背景とした近年の家計負債の増加スピードに、中央銀行も警戒色を強めています。

<ノキア、復活への狼煙>

携帯端末事業を米マイクロソフトに売却して経営再建に取り組む、フィンランドのノキア社は利益率目標の引き上げや事業の絞り込みを中心とした、野心的な長期事業計画を発表しました。売上高の90%をネットワーク事業(通信機器部門)が占める新生ノキアは、新たに開拓した中国移动通信やソフトバンク傘下の米スプリントとの取引が業績改善に寄与するなど、経営の土台を再び固めつつあります。また、20年以上にわたり携帯事業を展開した同社が持つ特許はまさに宝の山であり、今後も同社が受け取る巨額の特許収入が業績を下支えすることが期待されます。

<デンマークのマースク・ライン、超弩級コンテナ船の追加発注を検討>

デンマークの世界最大手海運、マースク・ラインの2014年第3四半期業績は前年同期比で23.5%の増益となりました。輸送力増強やコスト削減の観点から、アジア-欧州航路ではコンテナ船の大型化が進むとみて、同社が2011年に発注した世界最大のコンテナ船20隻[※]に続き、同型艦を追加で発注する見込みです。競合他社も同規模の船舶の確保を急いでいるとされ、現在、超大型船として定義される積載コンテナ10,000基規模のコンテナ船は、この先5年以内に淘汰されるとの見方も出ています。

※20フィートコンテナ18,000基を積載可能

<2014年10月のノルウェー海産物輸出金額は過去最高を記録>

2014年10月のノルウェー海産物輸出金額は76億ノルウェー・クローネとなり、単月での海産物輸出金額記録を更新しました。主力のノルウェー・サーモンは横ばいながらも、タラとサバが好調でした。ノルウェーの水産業は漁業と養殖業のバランスが強みです。ウクライナ問題に関連した、ロシアによる報復制裁で、ロシア国内の消費市場を失いながらも、年初来の海産物輸出金額は560億ノルウェー・クローネに達し、前年同期比で14%の増加となりました。

出所:各種資料より当社作成

* 上記は文中に登場する企業に関連する特定の有価証券等の取得勧誘を行うものではありません。

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、北欧の資本市場と政治、経済等に関する情報を提供することを目的として作成したものです。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。

☆ノルウェーが1番！

＜サケマス養殖の生産量が世界第1位＞

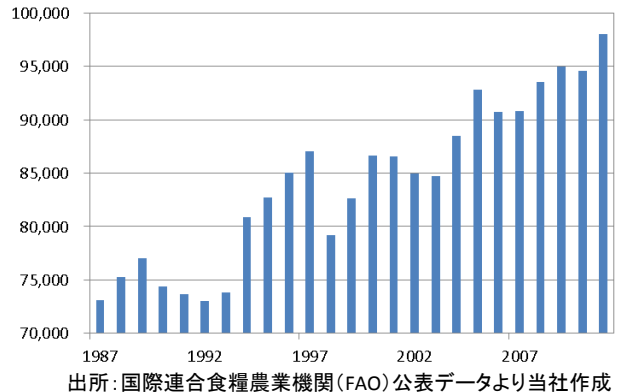
オーロラサーモンやアトランティックサーモンの名で、日本でも流通している大西洋サケは世界でもっとも数多く養殖されているサケの1種です。多くの国がサケマスの養殖に取り組む中、自然環境に恵まれたノルウェーはアトランティックサーモンを中心に、世界第1位のサケマス漁獲量・養殖量を誇ります。新興国の経済発展や世界的な健康志向の高まりを受け、食用水産物の供給量は年々増加しています。今後も新興国を中心とした人口増加も予測され、水産物への需要はますます高まることが期待されます。また、水産資源の枯渇や技術の進歩により、様々な水産生物が養殖されていますが、サケマス養殖は技術の確立や需要の増加を背景に、この四半世紀で規模を拡大しています。その中でもブランドを確立したアトランティックサーモンはノルウェーの水産物輸出を牽引する品目の一つにまで成長しています。

サケマス漁獲量・養殖量
(2012年、単位：千トン)

順位	国名	漁獲・養殖量
1	ノルウェー	1,308
2	チリ	818
3	ロシア	515
4	アメリカ	330
5	イギリス	176
6	日本	176
...		
10	フェロー諸島(デンマーク)	77
...		
15	デンマーク	32
...		
17	フィンランド	21
...		
19	スウェーデン	15

出所：国際連合食糧農業機関(FAO)公表データより当社作成

世界の食用水産物供給量推移
(1987年～2011年、単位：千トン)



世界の養殖量推移

(1987年～2012年、1987年数値を100として指数化)

